

函館校 国際地域学科・地域協働専攻・国際協働グループ 4年 信太裕二郎
SOAS (ロンドン大学アジア・アフリカ学院) イギリス
2018年1月4日～12月28日

帰国報告書 ～イギリスでの一年間の交換留学を経て～

私は2018年1月から12月までイギリス・ロンドンにあるSOAS(ロンドン大学アジア・アフリカ学院)で英語を中心に学ぶELASコースへ交換留学をしました。まず、一年間のイギリスへの留学を決意した理由として3つ挙げたいと思います。一つ目は、一度でもいいから海外に長期滞在をしてみたいという気持ちが大学入学時からありました。また二つ目に、中学生の頃から得意科目としていた英語の力をより一層伸ばしたいと考えていたため、アカデミックな英語を学べるSOASへの語学留学を決意しました。最後の三つ目は、ロンドンという地理的な利点からイギリス国内・ヨーロッパ圏へのアクセスが良いということです。長期休業期間中に、旅行として気軽にヨーロッパ圏へ行って現地の食べ物を堪能したり、博物館・美術館訪問が出来るのも、留学を有意義にする良い点だなと考えました。

この帰国報告書では、主に①留学経験から得られたこと、②これから留学する学生へ伝えたいことの二点について報告します。

1 留学経験から得られたこと

ここでは、一年間のイギリス留学を経て経験し得たことについて述べたいと思います。

① 勉強面

ELASコースでは、先述したように英語の授業を中心とした学習となっています。またそれに付随して、アカデミック教科と選択教科を各学期中に勉強できます。

これらの講義を経て得られたことは、勉強に対する関心が以前より高まったということです。特に秋学期に受けた選択科目の美術の授業が学習と共に楽しく講義を受けることができました。この授業では授業を経た数日後に、実際にロンドンにある博物館や美術館へ訪問・作品鑑賞をし、どう感じたのかを英語で伝えあうことを目的としています。授業で確認した内容と共にそれぞれの作品がどう見えるのかを英語で伝えるのは難しいですが、画家が歩んできた歴史や作品の意図を学習できてかつそれを直に見ることができたことはとても充実した学習となり、美術への興味を持つ良い機会となりました。

また全体的に他の学生の意見を聞くことで考え方の幅が広がりました。こう感じることもできたのも、ディスカッションやセミナーの授業を経て、お互いの考えを交換・発展できたということが要因として挙げられます。

② 生活面

現地で生活して得られたことは、感じたことを伝える・訴えることの大切さです。

このように感じた一つの経緯として、イギリス南部に位置するブライトンへの日帰り旅行で不意に予定していたバスが来なかった時のことを紹介したいと思います。朝にバス運転手が指示したバス停でロンドン行のバスを待っていたのですが、バスが現れる気配もなく、結局予定していたバスの乗車はできませんでした。バス停には、複数人が私と同じ状況となっており、困惑している状態が続きました。そんな中、四人組の女性グループの一人がバス会社に30分近く、クレームをつけ続けている姿を見ました。自分はその時クレームをすることなど考えずに、ロンドンへ帰る他の方法を考えていました。その時は「仕方ないから、他の方法で帰ろう。」とだけ考えており、バス側の対応不足に対してはあまり考えていませんでした。ただ本人たちは今起こっているバス会社側の失態に直接向き合っ、交渉していました。その姿を見たときは、はっとさせられ同時に反省もしました。自分の語学力の自信の無さだけでなく、その時に生じた問題に対しはっきりと伝える・訴えることの大切さを実感させられたからです。

この経験は、日本語が公用語ではない海外だからこそ刺激的なものとして残っている記憶だと感じています。ここで述べたことは、どこに行っても重要なことなので今後意識して毎日の生活を送っていきたいと思います。

2 これから留学する学生へ伝えたいこと

最後にこれから留学する学生へ伝えたいことを述べて、この帰国報告書を終わりたいと思います。

それは、「留学前から自分のやりたいことを有意義にそして楽しむこと」と「留学の目的を明らかにすること」です。留学前から授業・部活・サークル・課外活動に参加することで自分の好きなことができますよね。その好きなことから留学先でも周囲との交友関係の輪が広まっていくと思います。また、出来れば留学前から留学の目的を自分なりに設けることが留学それ自体を意義あるものにすると思います。自分はこの二つ目がはっきりしていなかったと反省しています。どんな理由でも良いので留学先で経験したいことを考えてみたらどうでしょうか。



～キングスクロス駅周辺の風景写真～

一年間の留学は長く聞こえるようで実際に現地生活してみると本当に短いです。ただ留学先で得られた経験は次のステップへと繋がる貴重な機会です。今後一年間海外へ留学される方は、この短い貴重な時間を無駄にせず十分に勉学と日常生活を楽しみ、「また、留学したい」、「また現地に戻りたい」と思える交換留学になっていることを願っています。

夏学期（4~7月）の時間割表

列 1	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
9:00-10:00	literacy		humanities discussion	Oracy	literacy
10:00-11:00	literacy			Oracy	literacy
11:00-12:00	oracy				
12:00-13:00	oracy				
13:00-14:00			humanities case study		
14:00-15:00		humanities lecture			
15:00-16:00				media	media
16:00-17:00		humanities review		media	media
17:00-18:00			humanities seminar		

語学コースで知り合った友人との写真

